

中学校 第2学年 外国語科 学習指導案

大阪国際中学校高等学校教諭
教諭 関田 信生

単元名 Lesson 3 Design Makes Change（7時間）

単元の目標 (Goal) 【内容理解】 紹介されているデザインが、どのように役立っているかを理解する。
【活動】 身のまわりの便利なデザインを探して、どこが便利かを表現することができる。

本時（第1時）のめあて 【内容理解】 本文の要点を掴み、Check の問いに答えよう。
【活動】 なりたい、したいことなどを伝える表現の形・意味を理解しよう。

本時（第2時）のめあて 【内容理解】 本文の内容を理解し、目的や場面に沿って本文のやり取りをふくらませよう。
【活動】 なりたい、したいことなどを伝える表現の使い方を理解しよう。

指導時期 6月

指導者用デジタル教科書（教材）活用の意図・目的

単元の導入では、単元に関する内容を動画で確認することができる。アフリカの人々が、道具を用いて実際に水を運ぶ様子などを見ることで、単元に対する興味・関心を引き出すことができる。

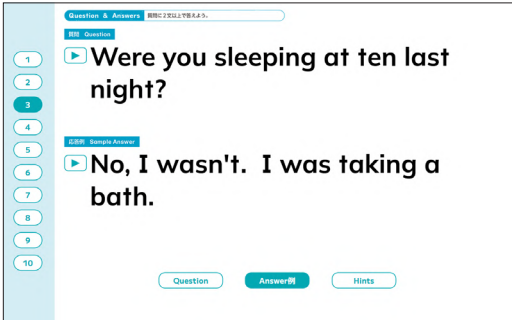
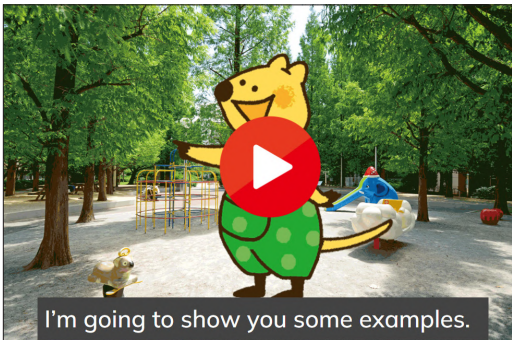
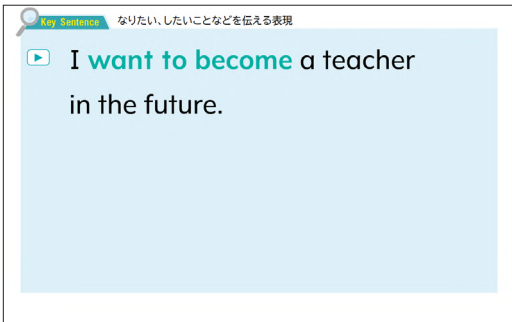
本文の学習では、音読練習をする際に、単に英文を見るだけではなく、音声のみ（Listening）、文字のみ（Reading）、イラストのみ（Speaking）、絵と音声をヒントに英文を書く（Writing）、といったスキル別の活動を容易かつ効果的に展開することができる。このように生徒の4技能を強化することが可能である。

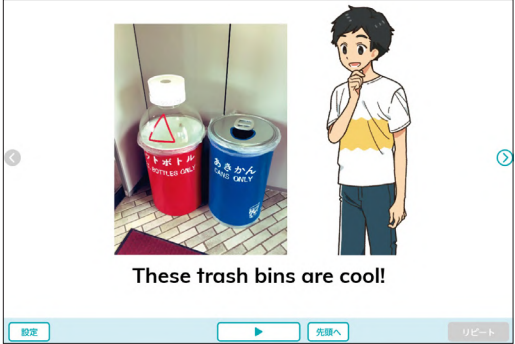
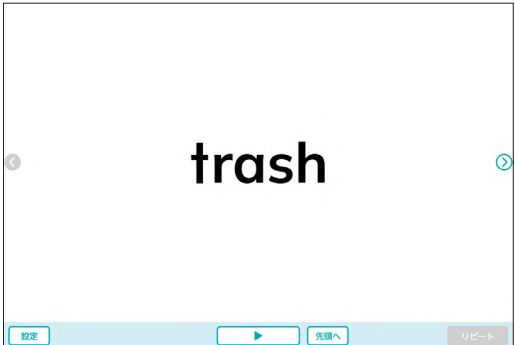
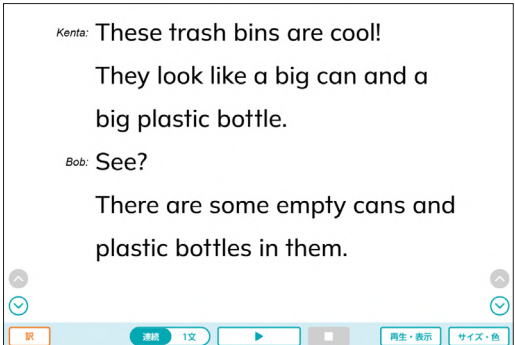
音読練習では、リーディングコンテンツを利用すると、音読すべき英文の色がハイライトで示されることによって、「指なぞり音読」と同じ効果を引き出すことができる。

また、Key Sentences の学習に関して、「Tool Kit コンテンツ」を利用する。例→問①→問②→問③とそれぞれを拡大表示して活動することができる。それにより、生徒が「今」「何」に注視すべきかを強調することができ、さまざまな活動をスムーズに行うことができる。生徒の集中力を高めることで、自然と生徒の声が大きくなる。そのほかの活動でも、同様の効果が期待できる。

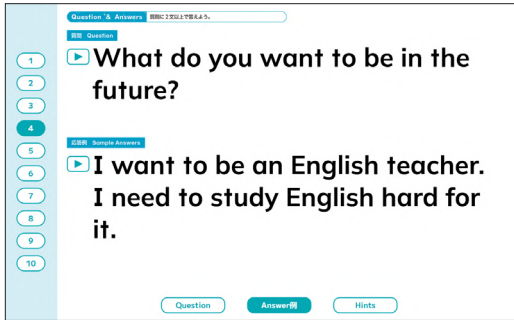
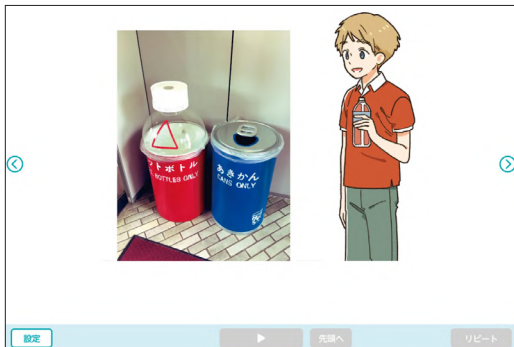
本時（第1時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入 (13分)	1 授業の導入（5分） ※ 前時までの宿題例1：「まなびリンク」から「Words & Phrases 学習シート」を印刷して、生徒に配付しておく。「学習者用デジタル教科書」のpp. 33～35の「新出語句一覧」で、単語の書き写しと音読練習を予習課題としておく。 ※ 前時までの宿題例2：「How to Use 文法解説動画」Lesson 3-1の動画URLを生徒に共有し、視聴させておく。	● 単語の発音と意味を予習する。  The screenshot shows a digital interface titled 'Words & Phrases'. It lists the following items: - trash (名) ごみ - bin (名) ごみ入れ - bins (名) bin の複数形 - look like ~ (～のように見える) - plastic (名 形) プラスチック (製の) At the bottom, there are navigation buttons: '前ページ' (Previous Page), 'マスク' (Mask), a play button, '先頭へ' (To Top), 'ポーズ' (Pause), and '次ページ' (Next Page).

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入 (13分)	●「指導者用デジタル教科書（教材）」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 (1) あいさつ (2) 帯活動 ● Activities Plus 2 (p.42) の「Activities Plus コンテンツ」で、「Question」を画面で示す。 3. Were you sleeping at ten last night? のやり取りを、生徒にペアで取り組ませる。(必要に応じて、「Answer 例」「Hints」を示してもよい。) 2【扉ページ [p.33]】単元の題材の導入 (8分) (1) 扉ページの紙面内容の導入 ● レッスンタイトルを音読する。(ただし、タイトルを日本語には訳さず、「このタイトルの意味が、徐々にわかってくるよ」と言って、内容に関してワクワク感を出す。 ● What are they doing ? の音を流して、生徒がペアで話し合う時間を設け、その後、共有する。 ● 「指導者用デジタル教科書（教材）」の「単元導入動画」を視聴させる。その後、題材について、わかったことや興味を持ったことを生徒がペアで話し合う時間を設け、その後、共有する。 (2) 単元の Goal の確認 (3) 「本時のめあて」の確認	● 起動  ● 帯活動（スモールトーク）  ● 単元の内容を確認 
展開 (35分)	3【Part 1 [pp. 34 ~ 35]】 Key Sentenceの指導 (10分) (1) Key Sentence の「形」「意味」などの簡単な説明 ● 「Key Sentence (s) コンテンツ」を起動して、例文を大きく表示する。適宜、英文の下に説明を書き込む。 (2) 口頭練習（リピート練習など） ● 「Key Sentence (s) 定着コンテンツ」を起動して、パターン練習を行う。(「学習者用デジタル教科書」p. 35を開いて活動させてもよい。) 4本文の指導 (18分) (1) 「Scene」「Check」の確認 (2) リスニング ● 「指導者用デジタル教科書（教材）」の「リーディングコンテンツ」を起動する。「再生・表示」の設定を「本文表示なし」にして、音声のみを聞かせる。	● 音声と英文を合わせて提示  ● 本文を見ずに音声のみを聞く（「本文表示なし」に設定） 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開 (35分)	(3) 本文を見ながら聞かせる ●「本文 Picture-Story Show」を起動して、音声と一緒に、イラストと英文を見ながら聞き直す。 (4) Words & Phrases の指導 (音声と意味の確認) ●「フラッシュカード」を起動して、新出語句の音声と意味を確認し、発音練習をする。 (5) 本文内容についての説明 ●「リーディングコンテンツ」を起動して、本文を示す。ペアまたは小グループに分かれて、本文に何が書かれているかを確認する。 ●生徒から質問を受け、クラス全体で内容を確認する。 5本文の音読練習 (7分) (1) コーラル・リーディング ●すでに起動している「リーディングコンテンツ」を利用して、音読練習を行わせる。 ●クラスの習熟度に応じて、「再生・表示」の設定を、「新出単語ブランク」に設定して行ってもよい。 (2) インディビジュアル・リーディング ●必要があれば生徒も「学習者用デジタル教科書」のp.34から「リーディングコンテンツ」を起動する。連続または1文ずつ、音声を確認しながら音読練習を行わせる。 ※時間がある場合は、「指導者用デジタル教科書 (教材)」で、再度、「本文 Picture-Story Show」の文字表示を「英語」、音声を「なし」に設定する。英文と絵を1文ずつ表示しながら、本文の内容を再確認させる。 そして、Part1 で示されているゴミ箱と教室に設置されているゴミ箱はどこが違うのか、どうしてちがっているのかをペアやグループで話し合わせる。その後、クラス全体でそれぞれの意見を共有させる。	●本文を見ながら聞き直す  ●新出語句を確認・練習  ●音読練習  ●1文ずつ確認 (音声なしに設定) 
まとめ (2分)	6まとめ・ふり回り (2分) (1) 「本時のめあて」に対するふり回り (2) 宿題の提示 (例) ①「学習者用デジタル教科書」のp. 34から「リーディングコンテンツ」を起動して、音読の練習をする。また、「録音・再生」で自分の声を録音し、モデル音声と聞き比べる。 ②Part 1 の Think & Try! について、自分のアイディアを考えてくる。 (3) あいさつ	●音読練習をして自分の読み方を確認 

本時(第2時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入 (5分)	1 授業の導入 (5分) (1) あいさつ (2) 帯活動 Activities Plus 2 (p.42) の「Activities Plus コンテンツ」で、「Question」を画面で示す。 4. What do you want to be in the future? のやり取りを中心にペアで取り組ませる。(必要に応じて、「Answer 例」「Hints」を示してもよい。) (3) 「本時のめあて」の確認	● 帯活動 (スモールトーク) 
展開 (43分)	2 [Part 1] Key Sentenceの復習・定着 (10分) - Grammar (p.41) の記述内容などを参考に説明する。拡大表示して、How to Useの1. について説明する。生徒とオリジナルの英文を作ってみてもよい。 3 Tool Kit (7分) 「Tool Kit コンテンツ」を起動して、1問ずつ提示する。 (1) 例文の復唱と①～③の語句の意味の確認 (2) ①～③の解答を確認 (3) ①～③を口頭練習 4 Let's Listen (6分) 「Let's Listen コンテンツ」を起動する。 (1) 指示文をもとに、場面・状況を確認 (2) 音声を聞かせ、解答させる (3) 聞いてわかったことと、解答を確認 (台本を示すことができる) (4) 時間があれば、ディクテーションをさせる - want to が用いられている英文だけをノートに書きとるようにしてもよい。 5 [Part 1] 本文の復習と音読 (8分) (1) 本文の概要のふり返し 「本文 Picture-Story Show」を起動する。見たり、聞いたりして本文を復習した後、音読練習をする。時間があれば、設定を「絵・写真のみ表示」にして、生徒と一緒に Retelling を行うとよい。	● 不定詞〔名詞的用法〕「～すること」を解説 1. する必要があること、になりたいものなどを述べる時 (不定詞〔名詞的用法〕) I need to buy some milk . 牛乳を買うこと I want to be a baseball player . 野球選手になること ● パターンプラクティス  ● 解答を確認後にディクテーション  ● イラストのみを表示して本文をRetelling(「絵・写真のみ」に設定) 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開 (43分)	6 Think & Try! (12分) (1) 活動内容と英文の流れを確認 ●教科書p.154に掲載されている「活動例」2例を参考に、自由な発想で回答案を作成する。 (2) ペアまたはグループ活動 ●ペアやグループで、相互に考えたことを共有させる。 ●役割を分担して、やり取りの練習をさせる。「Think & Try! コンテンツ」を起動して、会話文を表示する。ペアでMeiとAyaのセリフとしてどのような英文を入れるか相談し、演じてみる。 ※デザインによって、「可能になること（しなくなること）」（デザインの効果）を考えて英文を加えるようにさせる。 ●数組を指名して、クラス全体で発表させる。	●ペアでセリフを考えて演じてみる 
まとめ (2分)	7 まとめ・ふり返し (1) 「本時のめあて」に対するふり返し (2) 宿題の提示 (3) あいさつ	

指導者用デジタル教科書（教材）を活用したことで得られる効果

「指導者用デジタル教科書（教材）」を活用することによって、教室前には常に「今学習している内容」を投影することができ、生徒の視点を集めることができる。生徒が顔を上げることが多くなることで、教師は生徒の表情を確認することができ、生徒の理解やつまずきを敏感に気づくようになる。このように、教師・生徒の face-to-face の関係を、より容易かつ効果的に構築する助けとなる。

本単元では、デザインが活かされているものの動画や写真、本文では、新出語句や want to, to carry などの重要表現を拡大表示することができる。生徒が「今」「何」に注視すべきかを強調することができ、さまざまな活動をスムーズに行うことができる。「指導者用デジタル教科書（教材）」で、音声や文字、イラストなどをさまざまな形で組み合わせることができ、教師が授業を円滑に進めることができるとともに、生徒も授業が楽しくなる。